

第3章 主な対策外来種の個別解説

東京都外来種対策リストに掲載されている主な種について

次ページから都内で確認されている主な外来種について、基本的な情報や防除方法などを紹介します。掲載種の一覧と記載事項は以下の通りです。

分類	種名	掲載頁	分類	種名	掲載頁	分類	種名	掲載頁
植物	オオカナダモ	45	哺乳類	クリハラリス	55	魚類	コクチバス	65
	キショウブ	46		アライグマ	56		ブルーギル	65
	オオカワデシャ	47		ハクビシン	57		コイ（飼育型）	66
	ナガエツルノゲイトウ	48		ニホンイタチ	57		カマツカ	66
	外来アカウキクサ属	49		ドブネズミ	58		ドジョウ（中国大陸系統）	66
	ホテイアオイ	49		クマネズミ	58		カダヤシ	67
	オオフサモ	49		ニホンジカ	58		グッピー	67
	外来スイレン属	50		キョン	59		ヒメダカ等のメダカ改良品種	67
	コゴメイ	50	鳥類	ガビチョウ	60	昆虫類	ムネアカハラビロカマキリ	68
	オランダガラシ	50		ソウシチョウ	60		リュウキュウベニイトトンボ	68
	オオキンケイギク	51		ワカケホンセイインコ	60		アカボシゴマダラ	68
	オオブタクサ	52	爬虫類	アカミミガメ	61		クビアカツヤカミキリ	69
	アメリカセンダングサ	53		クサガメ	62		ヒアリ	70
	セイタカアワダチソウ	53		カミツキガメ	62	クモ類	セアカゴケグモ	71
	アレチウリ	53	両生類	アズマヒキガエル	62		アメリカザリガニ	72
	メマツヨイグサ	54		ウシガエル	63	甲殻類	フジツボ類	73
	ヒメツルソバ	54		ヌマガエル	63		チチュウカイミドリガニ	73
	エゾノギシギシ	54		トノサマガエル	63	貝類	コウロエンカワヒバリガイ	73
			魚類	オオクチバス	64		スクミリンゴガイ	73

●ページの見方

原産地：自然状態での
生息・生育地

- 外来生物指定カテゴリ
- 外来生物法で
特定外来生物に指定
 - 日本の侵略的外来種
ワースト100
 - 生態系被害防止外来種
リストにおけるカテゴリ

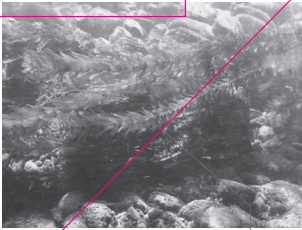
主な生息・生育環境を
それぞれ表示
森：森林
里：里山
都：都市
川：河川や沼沢地 等
湾：東京湾
伊：伊豆諸島

紹介している外来種とよく
似た種類との見分け方や
トピックスなど

トチカガミ科 原産地：アルゼンチン

オオカナダモ

植物 特定外来 日本100 重点対策



草丈が1m余りになる



雄花葉腋から2〜4個が花柄でつながつて水上に出る

◎中西由美子

よく似た外来種

同じような環境に生育するコカナダモ。多年草で草長 20〜50cm ほどで葉が暗色・小型であること、雄花が1個、花柄がないことでオオカナダモと識別可能。雌雄異株だが日本では雄株のみで、茎葉の切れ端から繁殖している。



コカナダモ

特徴

多年生の沈水植物で長さ1mになる。觀賞用、植物生理学の実験用として導入。

生育環境：湖沼、溜池、河川、水路

花期：初夏に白い花

特性：日当たりの良い水域を好む。乾燥にも強い。

主な被害

生態系：クロモなどの在来種（在来沈水植物）との競合。

生活：水路の水流を阻害。アレロパシー作用。寄生虫、菌の宿主となる。

手引き各種掲載URL

外来種等が農業水利施設に及ぼす影響と対策の手引き（改訂版）
https://www.maff.go.jp/j/houshin/kankyo/kankyo_hozen/attach/pdf/gairai-76.pdf

防除のポイント

丁寧に根から抜き取る

茎は柔らかくちぎれやすいので、丁寧に根から抜き取る。ちぎれた植物片から再生するので、飛散した切れ端などは丁寧に回収、除去する。

一度大まかに植物体を除去

大きな群落になると、絡み合って完全に除去することは難しいので、一度大まかに植物体を除去したのちに、数週間ごとに再生した芽を抜き取ることを丁寧に繰り返すのが効果的。

抜取り後は陸上に積み上げる

陸上で生育することはできないので、抜取った後は陸上に積み上げて乾燥させて処分する。



防除の様子。大きな群落は一度では根絶できないので、少しずつ地道に駆除を続ける

定着段階は
「未定着」「定着初期」
「まん延期」
本土部と伊豆諸島に分けて記載

東京都対策リストの
カテゴリ
本土部と伊豆諸島に分けて記載

紹介している外来種の
生息・生育環境や主な被害
など
生態系 生態系への被害
産業 農林水産業への被害
生活 人の生命・身体及び
くらしへの被害

防除の参考となる
手引きやマニュアル、
相談窓口などを記載
(URL等は2025年8月20日閲覧情報)

防除を実践するための
手法等の紹介

トチカガミ科 原産地：アルゼンチン

オオカナダモ

植 物

特定外来

日本100

重点対策

生息・生育環境

東京都

森里都
川湾伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

定着初期

防除推進



草丈が1m余りになる。

雄花は花柄があり、2～4個が水面に出て咲く。

よく似た外来種

同じような環境に生育するコカナダモ。多年草で草長20～50cmほどで葉が暗色・小型であること、雄花が1個、花柄がないことでオオカナダモと識別可能。雌雄異株だが日本では雄株のみであり、茎葉の切れ端から繁殖している。



コカナダモ

特 徴

多年生の沈水植物で長さ1mになる。観賞用、植物生理学の実験用として導入

生育環境：溜池、河川、水路、公園池

花期：初夏に白い花

特性：日当たりの良い水域を好む。乾燥にも強い。

主な被害

生態系：クロモなどの在来種（在来沈水植物）との競合

生活：水路の水流を阻害。寄生虫、菌の寄主となる。

手引き各種 掲載 URL

外来種等が農業水利施設に及ぼす影響と対策の手引き（改訂版）（農林水産省）

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo_hozen/attach/pdf/gairai-76.pdf

防除のポイント

丁寧に根から抜き取るのが基本

茎は柔らかくちぎれやすいので、丁寧に根から抜き取る。ちぎれた植物片から再生するので、飛散した切れ端などは丁寧に回収し、除去に努める。

一度大まかに植物体を除去

大きな群落になると、絡み合って完全に除去することは難しいので、一度大まかに植物体を除去したのちに、数週間ごとに再生した芽を抜き取ることを丁寧に繰り返すことが効果的である。

抜き取り後は陸上に積み上げる

陸上で生育することはできないので、抜取った後は陸上に積み上げて乾燥させて処分する。



沈水植物の防除の様子。大きな群落は一度では根絶できないので、地道に駆除を続ける。

アヤメ科 原産地：ヨーロッパから西アジア

生息・生育環境

東京都

キショウブ

森里都
川湾伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

未定着

侵入予防

植物

特定外来

日本100

重点対策

特徴

多年生の抽水植物。観賞用として導入。ビオトープ創出や水質浄化のために栽培

生育環境：溜池、河川、水路、湿地、公園池

花期：初夏

特性：根茎、種子で繁殖する。日当たりを好むが日陰にも生育する。

主な被害

生態系：在来種との競合

在来のアヤメ属との交雑

生活：畑作物との競合

手引き各種 掲載 URL

長野県版外来種対策ハンドブック～みんなで守る信州の自然～(長野県)

https://www.pref.nagano.lg.jp/shizenhogo/kurashi/shizen/hogo/gairai/documents/24_kishoubu.pdf

防除のポイント

根からの掘り取りが効果的！

小さな根の断片からでも再生するため、取り残さないように掘り取ることが大事

株を小さくしてから掘り取る

刈り取りを継続すると株は徐々に小さくなる。大きな株は小さくしてから掘り取るなどの工夫をする。

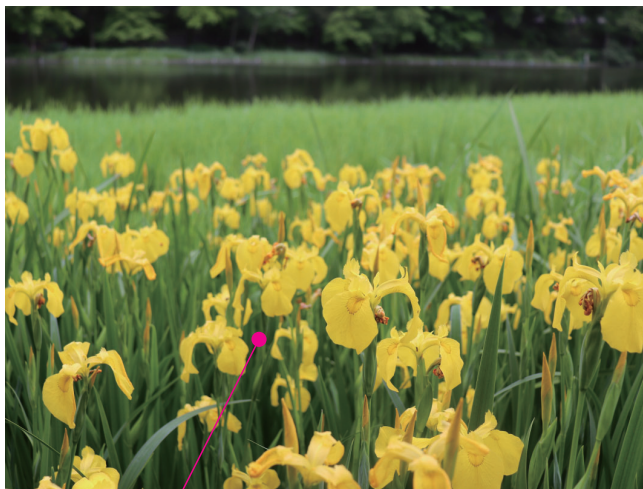
同所的に生育する希少種に留意する

在来の希少種と混生している可能性があるため、事前に確認し、希少種の保全も同時に図る。



根が太く枝分かれして広がるため、広めに周囲を掘り、根が残らないよう注意して掘り取る。

根絶に向け、毎年発芽状況に応じて繰り返し駆除を続ける。



黄色い花が目立つ。



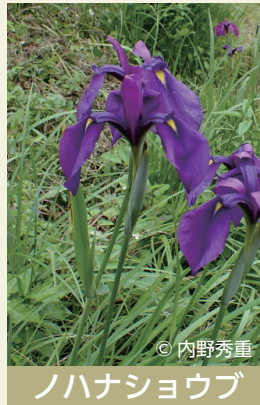
地下茎は太く枝分かれして広がっていく。

同じ仲間の在来植物

水辺の在来種と競合し駆逐するおそれがある。特に同じ科の絶滅危惧種であるアヤメやノハナショウブにとっては、生育場所を奪われるだけでなく、交雑による遺伝的かく乱がおきる可能性も高い。



アヤメ



ノハナショウブ

© 内野秀重

オオバコ科 原産地：ヨーロッパからアジア北部

オオカワヂシャ

植 物

特定外来

日本100

緊急対策

生息・生育環境

東京都

森 里 都
川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

未定着

侵入予防



在来種のカワヂシャと比べて花が大きく目立つ。

花が鮮やかな青紫色で在来種のカワヂシャと区別可能

同じ仲間の在来植物

カワヂシャはやや薄い色の花をつける場合が多く、オオカワヂシャにくらべて花びらの紫色の筋がほとんど無いか目立たない。また、カワヂシャの葉は鋸歯が大きく、はっきりしていることでも区別できる。



カワヂシャ

特 徴

多年草。高さ 1m ほどになる。導入経路は不明。1867 年に神奈川県で国内初記録

生育環境：水路、河川、湿地の水際

花期：4～9 月に開花

特性：日当たりの良い水辺を好む。
根茎で栄養繁殖も旺盛に行う。

主な被害

生態系：在来種のカワヂシャと交雑し、遺伝的かく乱などの影響を与える。

手引き各種 掲載 URL

地域と連携した河川における外来植物対策ハンドブック（案）令和 7 年度増補版（国土交通省）

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/gairai/pdf/handbook.pdf

河川における外来植物対策の手引き（国土交通省）

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/gairai/pdf/tebiki06.pdf

防除のポイント

抜き取りが基本

類似の在来種と区別するため、花びらが ついている間に根から抜く。残った茎から再生しないように植物体を残さない。袋に入れて天日にさらして枯死させる。

種子分散前に対策！

細かい粒状の種子が水流に乗って簡単に分散する。被害がひろがらないように果実が付く前に対策する。

土の移動に注意

多くの種子が含まれている可能性がある土壌については、種子を分散させないように移動に注意する。



河川や水路、湧水地、公園池などに生育する。速い流れにも対応し、水質も問わないなど、あらゆる水辺環境に順応することができる。

ヒユ科 原産地：南アメリカ

生息・生育環境

東京都

ナガエツルノゲイトウ

森里都
川湾伊

植物

特定外来

日本100

緊急対策

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

未定着

侵入予防

特徴

多年草。長さ 0.5 ～ 1m。アクアリウム等観賞用に導入後、野外逸出したと考えられる。

生育環境：水路、河川、湿地等

花期：4 ～ 10 月

特性：水草であるが乾燥に強い。根や茎の断片から再生し、耐塩性も高く、河口域でも繁殖が可能

主な被害

生態系：池や川の水面を覆うため、水質悪化や在来種の生育環境を奪う。

産業：水田や畑地で繁茂すると栽培植物と競合し、生育不良を起こす。

生活：水辺で大量に繁茂すると、排水溝を詰まらせるなど通水を阻害する。

手引き各種 掲載 URL

東京都ナガエツルノゲイトウ防除の手引き（東京都）
<https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kankyo/-ver-1-00>

ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル
（農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構）
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo_hozen/attach/pdf/nagae-33.pdf

防除のポイント

早期発見・早期駆除

生長の初期、群落が小規模であれば、駆除による根絶も可能

粘り強く対応

拡散力・再生力が非常に強く、わずかな個体や断片からも再生するため、駆除後も粘り強く駆除や監視をする。

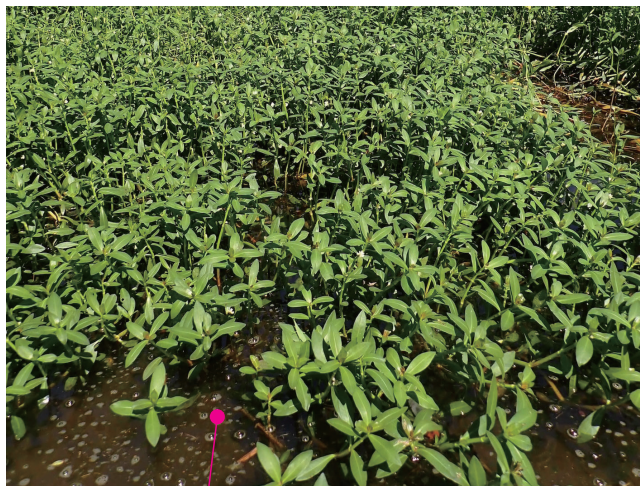
周囲への拡散を防止

河川や水利施設は、水を介して下流域や周辺の農地と繋がることから、水系として管理する視点が重要である。



河川敷に定着し繁茂した様子。早期に発見し対策することが重要

上流で繁茂した群落が大雨で流され、下流部に漂着することがある。



開けた場所では茎が横に這って広がり、あまり立ち上がらない。



球状花の直径約 1 ～ 1.5cm。花柄は葉の脇から伸びる。

似た外来植物

アメリカタカサブロウ（キク科 外来種）

葉が対生で、白くて小さい花が点々とつくように見えるので、ナガエツルノゲイトウと間違えやすい種として知られている。水田や水路周りでよくみられる。



アメリカタカサブロウ

ナガエツルノゲイトウと同様に、水面を覆ってしまい他種に被害を及ぼす外来種としては、オオバナミズキンバイ、ホテイアオイ（次頁）、ボタンウキクサなどもある。

サンショウモ科 原産地：アジア、アフリカ、南北アメリカ 外来アカウキクサ属 植物 特定外来 日本100 緊急対策	生息・生育環境 東京都 本土部 伊豆諸島 定着初期 未定着 防除推進 侵入予防
特徴 外来のアカウキクサ属には特定外来生物のアメリカオオアカウキクサなどがある。小型の浮遊植物で一年草または二年草。アイガモ農法の餌飼料として導入された。 生育環境：水田、休耕田、池等の止水域 花期：夏季に栄養繁殖を行う。 特性：開放水面等を覆うように繁茂。空気中の窒素を固定する藍藻と共生しており、繁茂すると富栄養化を引き起こす可能性がある。 主な被害 生態系：在来種との競合、交雑による遺伝的攪乱。水面下の水生生物への影響 生活：ダムやため池、水路などにおける通水阻害 手引き各種 掲載 URL 外来種等が農業水利施設に及ぼす影響と対策の手引き（改訂版）（農林水産省） https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo_hozen/attach/pdf/gairai-79.pdf	 © 中西由美子 水面を浮遊する浮草 植物体全体に赤みがある。 防除のポイント 発見したらすぐ除去 増殖速度がとても速いため、水田からの浮遊個体の流出を防ぐことが重要。人や物に付着しても移動するため、生育地に立ち入った時には、衣服や靴に付着したものを念入りに除去する。
ミズアオイ科 原産地：南アメリカ ホテイアオイ 特定外来 日本100 重点対策 本土部 伊豆諸島 まん延期 定着初期 防除推進 防除推進 森 里 都 川 湾 伊  特徴 多年生の浮遊性植物。日当たりが良い場所を好む。どんな水質にも適応する。 被害 過繁茂による水質悪化、他の植物の光合成阻害など生育環境の悪化など 掲載URL 河川における外来植物対策の手引き（国土交通省） https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/gairai/pdf/tebiki08.pdf 防除のポイント 発見したらすぐ除去 確認時に適宜駆除するほか、大きく生長する夏季前までに集中的に除去するのが望ましい。	アリノトウグサ科 原産地：ブラジル オオフサモ 特定外来 日本100 緊急対策 本土部 伊豆諸島 まん延期 未定着 防除推進 定着防止 森 里 都 川 湾 伊  特徴 多年生の抽水植物。池沼、河川などで日当たりの良い富栄養環境を好む。 被害 在来種との競合、水質の悪化、水流の阻害など 掲載URL オオフサモ駆除マニュアル（農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構） https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo_hozen/attach/pdf/gairai_soukihakken-2.pdf 防除のポイント 流出阻止・抜き取り すでに生えている植物体の流出を阻止する。茎や根茎がちぎれやすく再生能力が高いため、地下部の取り残しに注意することが重要

スイレン科 原産地：ヨーロッパ、アフリカ、東
南アジアなど

生息・生育環境

東京都

外来スイレン属

植 物

特定外来

日本100

重点対策

森 里 都
川 湾 伊

本土部
まん延期
防除推進

伊豆諸島
未定着
侵入予防

特 徴

多年生の浮葉植物。観賞植物として品種改良され、八重咲や色が華美なものが多い。

生 育 環 境：明るい湖沼・ため池

花 期：5～11月

特 性：根茎が伸長し大増殖する。池の水面を大きな葉で覆ってしまう。

主な被害

生態系：池を一面覆うことにより、在来の水
生植物の生育阻害など競合する。水
質の富栄養化による影響もある。在
来のヒツジグサと交雑する。

手引き各種 掲載 URL

なごやの園芸スイレン除去活動

(なごや生物多様性保全活動協議会)

https://bdnagoya.jp/calendar/pdf/sui ren_boujo.pdf



きれいな花が咲くので、水辺によく植えられる。

防除のポイント

根茎を丁寧に抜き取る

確実に個体数（株数）を減らすことができる。
水深が浅く、小面積の場合に有効

シートで覆う

生育地をシートで覆い、光合成を阻害して枯死を
はかる。

イグサ科 原産地：オーストラリアなど

アブラナ科 原産地：ヨーロッパ

コゴメイ

特定外来 日本100 重点対策

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

情報不足

侵入予防

森 里 都 川 湾 伊



© 中西由美子

特 徴 多年生草本。沿海地、河川敷、湿地など
各地で急速に分布を拡大

被 害 在来種のイグサが消失するなど、水辺に
生育する在来種と競合する。

防除のポイント 導入を避ける

植物の移植時や、土などの搬入時の混入が予
測される。混入を避けると共に、移植後の監視、
駆除を行う。

オランダガラシ

特定外来 日本100 重点対策

本土部

まん延期

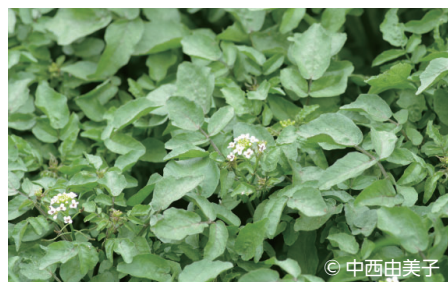
防除推進

伊豆諸島

まん延期

防除推進

森 里 都 川 湾 伊



© 中西由美子

特 徴 多年草。水田、水辺、溝などの日当たり
の良いところを好む。別名：クレソン

被 害 繁殖力が強く大群落を作り、水辺に生育
する在来植物を被圧

防除のポイント 根を残さず抜き取る

根の一部があるとそこからすぐに大きくなる
ので、必ず根から抜き取り、その後の継続監視、
駆除が重要

キク科 原産地：北アメリカ

オオキンケイギク

植 物

特定外来

日本100

緊急対策

生息・生育環境

東京都

森 里 都
川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

まん延期

防除推進



花の大きさは5～7cm

花びらの先がギザギザになる。



茎につく葉は狭倒披針形(へら形)。根生葉は長い柄があり、3～5小葉に分裂する。両面に粗い毛がある。

野生化した植物 (ワイルドフラワー)

欧米原産の園芸植物で、造成地などに草花の種子をまいて簡単に緑化するワイルドフラワー緑化という方法に使用されるもの。種子などによって容易に増殖し、痩せた土地などに耐える植物が利用されている。植栽地から逸出して大群落を作ったり、希少種を含む在来種と交雑する可能性もあり問題となっている。



ハルシャギク



キバナコスモス

特 徴

多年草。茎は束生し高さ 30～70cm。観賞用、緑化用として導入された。

生育環境：路傍、河川敷、海岸などの荒地
花期：5～7月
特性：明るく乾燥した場所を好む。繁殖力が非常に旺盛

主な被害

生態系：河原や草地に生育する在来の植物と競合
生活：道ばた、空き地などに大群落をつくるため景観に影響

手引き各種 掲載 URL

河川における外来植物対策の手引き（国土交通省）
https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/gairai/pdf/tebiki06.pdf
地域と連携した河川における外来植物対策ハンドブック（案）令和7年度増補版（国土交通省）
https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/gairai/pdf/handbook.pdf

防除のポイント

根から掘り取りが効果的！

根からの掘り取りが一番効果的。花の咲く時期が見分けやすく、作業を行いやすい。多年草は根を残さないように掘り取ることが重要

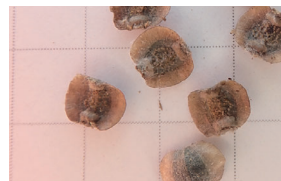


掘り取りが難しい場合

根からの掘り取りが難しい場合は、刈り取りを実施。種子が長期間残存するため、種子を形成する前の6月上旬頃までに開花・結実個体を優先的に刈り取りを実施

種子を落とさないように注意

種子が落ちないよう袋に密閉し、その場で枯らした後に、燃えるゴミとして処理



オオキンケイギクの種子
地面に落とさないように注意する。

キク科 原産地：北アメリカ

生息・生育環境

東京都

オオブタクサ

森里都
川湾伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

定着初期

防除推進

植 物

特定外来

日本100

重点対策

特 徴

大型の一年草。茎は直立し 3m にもなり大きな株になる。飼料穀物や豆類に混入

生育環境：畑地、樹園地、牧草地、河川敷、路傍、荒地、堤防

花 期：秋

特 性：肥沃で湿った所を好む。風媒花で種子は雨、鳥、人により伝播

主な被害

生態系：在来種との競合

産 業：畑作物、牧草との競合

生 活：花粉症の原因となる。

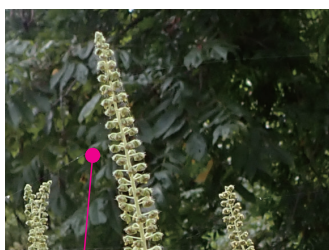
手引き各種 掲載 URL

地域と連携した河川における外来植物対策ハンドブック（案）令和 7 年度増補版（国土交通省）

https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/gairai/pdf/handbook.pdf



分枝し沢山の花をつける。



雌花。葉の根元に群生して種子を形成



© 中西由美子

雄花。この雄花から大量的花粉がまき散らされ空中を運ばれる。この花粉が花粉症の原因になる。

防除のポイント

種子が落ちないようにする

一年草なので、種子がつく前に除草するか、種子がこぼれないように袋へ入れるなどの方法が効果的

小さいうちに除草、集中除草

5月頃の芽生えから8月にかけて、とても早いスピードで大きく太く育つ。小さいうちは手で簡単に抜き取れるが、大きくなると鎌での刈り取りが必要になり、刈った草を片付けるのも一苦労となる。また、一年草は、開花前の駆除を数年間集中的に実施することで減少させ、分布拡大を抑制することができる。



© 中西由美子

オオブタクサの実生。できるだけ小さいうちに抜き取ることによって労力をかけずに駆除できる。

身近に多いキク科の外来種



ハルジオン



ヒメジョオン

公園や道端などでふつうに見られる植物だが、どれも海外からやってきた外来種。繁殖力が強く、タンポポ類では在来種と交雑するなど自然への影響が大きい。



セイヨウタンポポ

キク科 原産地：北アメリカ

アメリカセンダングサ

特定外来 日本100 その他の総合

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

定着初期

防除検討



特徴 一年草。耕作地や林内、道端など。水辺や湿地を好み、肥沃地に多い。

被害 在来種との競合のほか、イネや畑作物等にも影響する。

掲載URL 奄美群島にお住まいの方向けセンダングサ類防除マニュアル（鹿児島県）
https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20200511115130-1.pdf

防除のポイント 小さいうちの抜き取りが効果的

1年草なので、種子がつく前に除草する。種にトゲがあり衣服に付いて拡散するので注意する。

キク科 原産地：北アメリカ

セイタカアワダチソウ

特定外来 日本100 重点対策

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

まん延期

防除推進



特徴 多年草。河川敷や休耕地、路傍など。虫媒花だが地下茎でもよく増殖する。

被害 在来種との競合

掲載URL 地域と連携した河川における外来植物対策ハンドブック（案）令和7年度増補版（国土交通省）
https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/gairai/pdf/handbook.pdf

防除のポイント 夏までの抜き取りが効果的

抜き取りが難しい場合は、結実前に複数回、刈り取りを実施

ウリ科 原産地：北アメリカ

アレチウリ

植物

特定外来

日本100

緊急対策

生息・生育環境

森 里 都 川 湾 伊

東京都

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

未定着

侵入予防

特徴

一年草のつる性で茎は長さ数m～十数mにもなり、巻きひげで他のものに絡まる。輸入大豆に種子が混入していたといわれている。

生育環境：荒地、河川敷、路傍、耕作地など

花期：5～10月

特性：河川敷などの明るく開けた場所で這い広がり大群落を作る。

主な被害

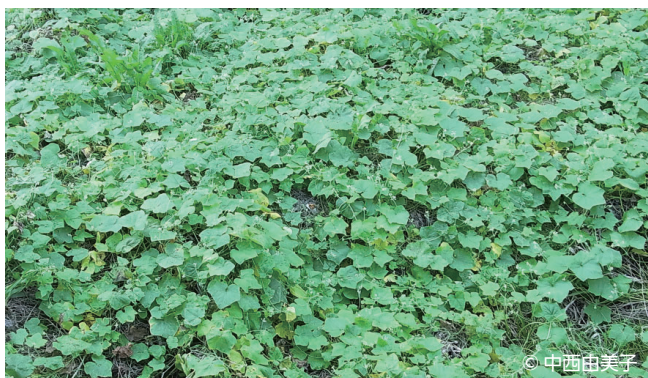
生態系：河川敷などの在来種との競合

産業：畑作物、イネ、造林木との競合

生活：河川敷や道路沿いに大群落をつくり景観などに影響

手引き各種 掲載URL

地域と連携した河川における外来植物対策ハンドブック（案）令和7年度増補版（国土交通省）
https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/gairai/pdf/handbook.pdf
 河川における外来植物対策の手引き（国土交通省）
https://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/kankyo/gairai/pdf/tebiki05.pdf



全てのものを覆いつくすほどの大群落に成長する。

防除のポイント

実をつける前に抜き取る

夏に花が咲き始める前の抜き取りが効果的。つるをたどって根元を探して抜く。大繁茂し、抜き取りが困難な場合は、根元で茎を刈れば、上部が枯れる。果実に鋭いトゲがあるので、結実期は注意する。

アカバナ科 原産地：北アメリカ

メマツヨイグサ

特定外来 日本100 重点対策

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

定着初期

防除検討



特徴 二年草。耕作地や路傍、河川敷、荒地など。攪乱地を好む。

被害 在来種、畑作物、牧草との競合など

防除のポイント 抜き取り、刈り取り

根からの抜き取りや、種子を形成する6月頃までに開花・結実個体を優先的に刈り取る。

タデ科 原産地：中国南部～ヒマラヤ

ヒメツルソバ

特定外来 日本100 その他の総合

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

まん延期

防除検討



特徴 匍匐性の多年生草本。市街地や民家の庭先やコンクリートの隙間に生育

被害 海岸岩場などに生育する在来植物と競合し、駆逐する恐れがある。

防除のポイント 導入を避ける

自然の岩場に侵入する恐れがある場合は特に注意。結実前に抜き取るか掘り取る。

タデ科 原産地：ヨーロッパ

エゾノギシギシ

特定外来 日本100 その他の総合

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除検討

伊豆諸島

未定着

侵入予防



特徴 多年草。耕作地、路傍、河岸、林地など。肥沃地からやせ地まで適応

被害 在来種のギシギシ類との交雑。山岳地の希少種群落を脅かす。

防除のポイント 個体の完全除去

多年草のため、根から抜き取る。

コラム

地域と連携した河川における
外来植物対策ハンドブック

地域と連携した河川における
外来植物対策ハンドブック
(案)
令和7年度増補版

令和7年4月
国土交通省 河川環境課

国土交通省が作成している地域と連携した河川における外来植物対策ハンドブックは、日本の河川で問題となっている外来植物20種の特徴や防除方法について事例を交え分かりやすく説明したものです。主に外来植物に詳しくない地域住民や河川管理者が、外来植物の知識を身につけたり、駆除活動に参加したりする場面での活用を目的として国土交通省により作成されました。河川における外来植物防除における様々な場面で活用されることで、多くの方々の参画による防除の推進に繋がるものと考えられます。

リス科 原産地：台湾、中国南部～インドシナ・マレー半島～インド北東部

クリハラリス

ほ乳類

特定外来

日本100

緊急対策

生息・生育環境

東京都

森里都
川湾伊

本土部

未定着

定着防止

伊豆諸島

まん延期

防除推進



腹面は栗色

毛の色彩には地理的変異があるが、国内に定着している個体群では、背面は黒と黄土色毛が混じって生える。

特徴

昼行性。樹上で活動し、よく鳴く。本来の分布域が広く、様々な気候や植生に適応

生息環境：主に常緑広葉樹林。市街地・造林地でも生息可

繁殖期：通年繁殖可能。最大で年3回。
特性：主に植物食だが動物質も少量食べる。冬季には樹皮を剥ぐ。

主な被害

生態系：樹皮剥離による樹木の枯死、未熟な種子の捕食。分布拡大による、在来リス科（ニホンリスなど）と競合する可能性あり。

産業：農作物の食害

生活：人家に対する破壊・侵入、電線噛害などの生活被害

手引き各種掲載URL

野生鳥獣被害防止マニュアル アライグマ、ヌートリア、キョン、マングース、タイワンリス - 特定外来生物編 - (農林水産省)
https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/attach/pdf/8_old_manual-2.pdf

樹皮をはぎ樹液をなめている個体(左)。餌の少ない冬季に行い、これにより樹木が枯死する。民家の柿を食害しているクリハラリス(右)。ミカン類やツバキの実などに被害をもたらす。



似た動物との見分け方



ニホンリス

ニホンリスは体の色が茶色味がり腹部は白い。



クマネズミ

クマネズミは樹上も利用する。尾が細長く、顔がとがる。

防除のポイント

箱ワナなどによる捕獲

箱ワナによる捕獲が一般的。自治体によっては箱ワナの貸し出しも行っている。

十分な事前調査を実施

クリハラリスが確認された地域で事前調査を行い、クリハラリスが良く目撃される場所、よく通るところを観察する。

ワナ設置の方法

箱ワナに餌を仕掛けてからしばらくは扉をロックして罠に慣れさせる。餌を箱ワナの周囲にもまいて誘引することも効果的

アライグマ科 原産地：北アメリカ～中央アメリカ

生息・生育環境

東京都

アライグマ

森里都
川湾伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

未定着

侵入予防

ほ乳類

特定外来

日本100

緊急対策

特徴

夜行性で昼間は休息している。水辺を好み、河川や側溝などを移動経路として利用。木登りが得意。前足が器用で触覚にも優れる。

生息環境：都市部から森林・湿地までの水辺に生息。人家や畜舎でも営巣

繁殖期：1～3月に交尾。4～6月に出産

特性：雑食性で両生類などの小動物から昆虫、果実や穀物などを幅広く食べる。

主な被害

生態系：鳥類の営巣妨害、小動物の捕食など
産業：農作物への食害、家禽類・養魚類への食害

生活：人獣共通感染症、文化財を含む建物侵入による破損・汚損

手引き各種 掲載 URL

外来種対策マニュアル（アライグマ・ハクビシン）（東京都）
https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/animals_plants/raccoon/racc_manual

野生鳥獣被害防止マニュアル【中型獣類編】—令和6年3月版（農林水産省）
https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/R5_tyuugata/r5_tyuugata_0.pdf



食害されたトウキョウサンショウウオ

防除のポイント

個体や痕跡を見つける

アライグマを目撃したら足跡や食べ痕を確認する。

侵入や食害を防ぐ

侵入や被害防止には侵入口を塞ぎ、畑などを電気柵やネットで囲うなどの対策がある。畑の周りの草刈りも効果がある。

都のアライグマ・ハクビシン防除実施計画と連携

区市町村では「東京都アライグマ・ハクビシン防除実施計画」に基づき、アライグマ・ハクビシンの捕獲を実施している。被害にあった場合は、まず各区市町村の環境部署や清掃部署等に連絡する。



目の周りには黒いマスク模様

尾に数本の縞模様がある。

足の指は5本に分かれる。



家屋に侵入し、建物損害、糞尿による汚損等を引き起こす。（関西野生生物研究所提供）



食害された農産物（カボチャ）

似た動物との見分け方



タヌキ

尾が太く縞がない。顔の黒い模様が目の間できれている。足痕の指は4本で爪跡は明瞭



アナグマ

鼻先が長く、体は灰褐色で足は黒く短い。足跡の指は5本で爪跡が非常に明瞭で長い。

ジャコウネコ科 原産地：ヒマラヤ、中国南部、台湾ほか

生息・生育環境

東京都

ハクビシン

森里都
川湾伊

本土部

伊豆諸島

まん延期

防除推進

ほ乳類

特定外来

日本100

重点対策

特徴

江戸時代・戦時中に持ち込みの記録がある。昼間は樹洞・岩穴・人家の屋根裏等で休憩し夜間に活動する。

生息環境：市街地から山間部まで幅広く生息
繁殖期：3～12月
特性：雑食性。果実や種子、昆虫や魚類、残飯なども食べる。

主な被害

生態系：在来の中型哺乳類と競合する。
産業：農作物への食害、家禽類への食害
生活：人獣共通感染症、文化財を含む建物侵入による破損・汚損

手引き各種 掲載 URL

外来種対策マニュアル（アライグマ・ハクビシン）（東京都）
https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/animals_plants/raccoon/racc_manual
野生鳥獣被害防止マニュアル【中型獣類編】—令和6年3月版（農林水産省）
https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/R5_tyuugata/r5_tyuugata_0.pdf



名前の由来通りに額から鼻にかけて白い筋が目立つ。

防除のポイント

都のアライグマ・ハクビシン防除実施計画と連携

都の防除実施計画に基づき、区市町村でアライグマ・ハクビシンの捕獲を実施している。被害にあった場合は各区市町村の環境部や清掃部等に連絡する。

イタチ科 原産地：日本国内

生息・生育環境

東京都

ニホンイタチ

森里都
川湾伊

本土部

伊豆諸島

在来種

まん延期

防除推進

ほ乳類

特定外来

日本100

緊急対策

特徴

伊豆諸島のイタチは、伊豆大島では在来種だが、その他の島へはネズミ駆除のために1934年頃の利島を最初として人為的に導入された。

生息環境：おもな生息地は平野部
繁殖期：4～5月
特性：小型哺乳類や鳥類、昆虫類などを食べる雑食性。昼も夜も活動する。

主な被害

生態系：島固有の小型哺乳類、鳥類、爬虫両生類、昆虫などへの捕食圧。島固有の生態系への深刻な影響を与える。
産業：鶏など家禽類への食害を及ぼす。



一部の島しょに導入され、島固有の生態系を脅かしている。

防除のポイント

現状を確認する

イタチが放獣された島しょでは、専門家による研究報告はあるが、詳しい調査はされていない。イタチを防除して島固有の生態系を保護するためには、現状把握が必要である。

ネズミ科 原産地：北アメリカ

ドブネズミ

特定外来 日本100 重点対策

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

まん延期

防除推進



- 特徴** 都市部の下水道やゴミ捨て場、地下街など湿った場所を好む。主に夜行性
- 被害** 在来種の捕食、農業被害、人獣共通感染症媒介など

防除のポイント 地域に適した捕獲方法を！

一般的にはワナによる捕獲。小笠原では毒餌の散布やベイトステーションを設置して駆除

ネズミ科 原産地：自然分布は判然としない

クマネズミ

特定外来 日本100 緊急対策

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

まん延期

防除推進



- 特徴** 都市部・農村部の建造物とその周辺乾燥した高所に生息。都会では夜行性
- 被害** 在来生物の捕食、農業被害、人獣共通感染症の媒介など

防除のポイント 島しょでは根絶成功事例あり

本種の餌が不足する冬季における毒餌の散布、抗凝血剤など遅効性の毒物が使われる。

シカ科 原産地：日本

ニホンジカ

ほ乳類

特定外来

日本100

重点対策

生息・生育環境

森 里 都
川 湾 伊

東京都

本土部

在来種

伊豆諸島

まん延期

防除推進

特徴

伊豆諸島では地内島に観光目的で放したシカが泳いで新島に渡り、分布が拡大した。

生息環境：新島島内の樹林や畑地

繁殖期：9月下旬～11月

特性：一夫多妻制で、雄の一部は交尾期になわばりを作り、その中にハーレムを形成する。多様な植物を食べる。

主な被害

生態系：在来自然植生に影響を与えている。

産業：農作物の食害。樹皮剥ぎによる樹木枯死や森林崩壊を起こす。

生活：山の植生に被害を及ぼし山崩れを誘発。ダニによる人への健康被害



新島に移入し、島の生態系を脅かしている。

防除のポイント

計画的な捕獲を実施

新島村では事前調査を実施し、獣害対策の専門家による指導のもと、計画的に対策を行っている。農業被害も減少傾向ではあるが、根絶を目指して事業を継続している。

シカ科 原産地：中国南部、台湾

生息・生育環境

東京都

キョン

森 里 都
川 湾 伊

本土部

伊豆諸島

未定着

まん延期

侵入予防

防除推進

ほ乳類

特定外来

日本100

緊急対策

特 徴

動物園施設から逸走。単独またはペアで行動。なわばりを持ち活動は主に朝と夕方

生息環境：主に森林やヤブの多い環境

繁殖期：通年

特 性：木や草の葉、果実を食べる。危険を感じると、イヌののような警戒声を発する。

主な被害

生態系：在来種の自然植生。食害による生態系への深刻な影響

産 業：農作物の食害。大島町では特産物であるアシタバや椿油用のツバキの葉への深刻な食害

生 活：住宅地での糞や鳴き声に対する問題

手引き各種 掲載 URL

キョン対策 - 東京都環境局（東京都）

https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/animals_plants/kyon

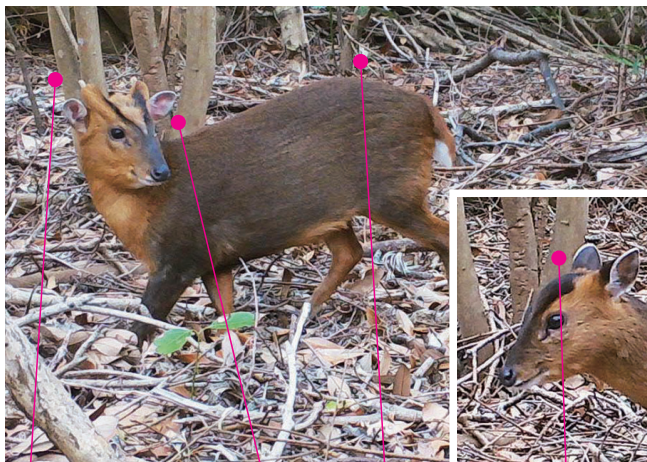
防除のポイント

本土部では十分な監視を

本土部では隣県の千葉県でキョンの分布が拡大している。千葉県柏市での目撃情報もあり都内に移動してくる可能性は高い。都では大島町でのキョン対策が継続中だが、本土部でも情報の収集を行い、千葉県などと隣接する区で情報を共有し、監視体制を構築する必要がある。

防除実施計画に基づく防除事業を継続

伊豆大島にまん延するキョンについて、都では外来生物法に基づいて防除実施計画を策定し、2007年度にキョンの防除事業を開始した。銃器や張り網、ワナ等での捕獲や、キョンの移動を妨げるための島内を分断する柵の設置などで、防除を実施している。捕獲に関しては、生息密度が高くキョンの主要な生息地である森林域で重点的に実施するとともに、近年は市街地でも捕獲エリアを拡大し捕獲を強化している。しかし、キョンの推定個体数は依然として多く、生態系に対する悪影響や農作物被害も続いており、捕獲を強化しなければならない段階にある。

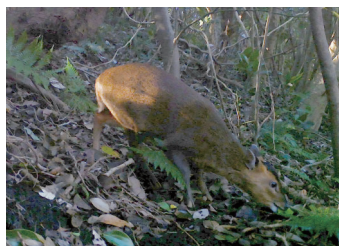


雄には角がある。

雌には角がない。

雄は目の上から頭頂にかけて黒い線が走る。

肩高は 50cm ほど。



林床の植物を採食するキョン。食害が進むと林床が裸地化する。

キョンに食害された植物



ニホンジカとの違い

ニホンジカにはキョンのように顔に黒い筋線がない。大きな違いはキョンにないお尻の白い毛があること。



ニホンジカ

チメドリ科 原産地：中国南部、台湾、ベトナムなど

生息・生育環境

東京都

ガビチョウ

森里都
川湾伊

本土部

伊豆諸島

まん延期

防除検討

鳥類

特定外来

日本100

重点対策

特徴

観賞用の飼い鳥が逃げ出したと考えられている。定着性が強く渡りをしない。

生息環境：丘陵地、平野部の低木林に生息し藪を好む。

繁殖期：4～7月

特性：他の鳥の鳴きまねを取り入れて大きな声で複雑にさえずる。主に地上で昆虫や果実などを食べる。



里山の管理が行き届かなくなったことも定着した原因

主な被害

生態系：在来鳥類の繁殖などへの影響が懸念される。

生活：鳴き声による騒音が問題となる場合がある。

防除のポイント

情報の収集

個体を見つけたら、現状を把握するために記録し、対策検討の資料とする。

チメドリ科 原産地：中国南部からヒマラヤ西部

インコ科 原産地：インド、パキスタン、スリランカ

ソウシチョウ

ワカケホンセイインコ

特定外来

日本100

重点対策

本土部

伊豆諸島

まん延期

防除検討

森里都川湾伊

特定外来

日本100

その他の総合

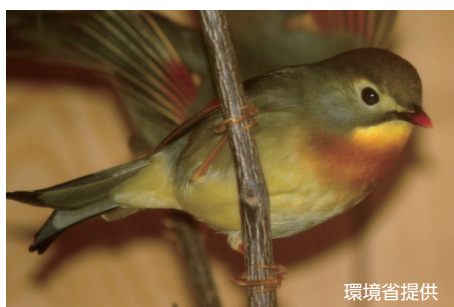
本土部

伊豆諸島

まん延期

防除検討

森里都川湾伊



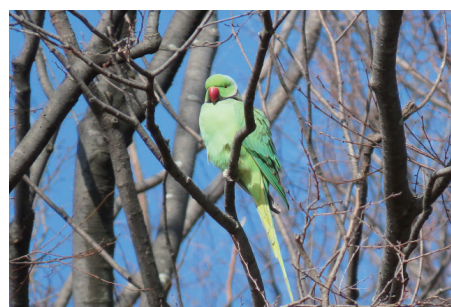
環境省提供

特徴 繁殖中でも10羽ほどの群がよく観察され、ササ群落中など活発に移動

被害 近年の爆発的な個体数の増加は在来種に影響を与えている可能性がある。

防除のポイント 情報の収集

記録をとり、対策検討の資料とする。



特徴 公園の樹木、人家の庭木、大木が残る神社・寺。ケヤキの樹洞に営巣

被害 在来の樹洞性鳥類と営巣場所を巡る競争の可能性はある。

防除のポイント 情報の収集

記録をとり、対策検討の資料とする。

ヌマガメ科 原産地：北アメリカ～中央アメリカ

生息・生育環境

東京都

アカミミガメ

森里都
川湾伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

未定着

定着防止

は虫類

特定外来

日本100

緊急対策

特徴

流通が禁止される前は大量・安価に販売されていた。

生息環境：底質が柔らかく、水生植物が繁茂した日光浴に適した陸場の多い穏やかな流れを特に好む。

繁殖期：交尾は春と秋
特性：昼行性で日光浴を好む。雑食性で藻類や水草、昆虫、甲殻類、貝類などさまざまな物を採食

主な被害

生態系：在来カメ類との競合。食物となる水生動植物、カルガモ等の水鳥のヒナの捕食

産業：観賞用ハス、ジュンサイ、ヒシの食害
生活：サルモネラ菌の感染

手引き各種 掲載 URL

アカミミガメ・アメリカザリガニについて（東京都）
https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/animals_plants/400100a20230502113144683
東京都公式動画チャンネルでアカミミガメ関連動画を公開
https://tokyodouga.metro.tokyo.lg.jp/search/?search_word=アカミミガメ

防除のポイント

飼っている個体を逃がさない

野外にアカミミガメを逃がすことは法律（外来生物法）で禁止されている。最後まで責任をもって飼育するなど、飼育や被害について周知する。

ワナでつかまえる

かごワナや日光浴ワナで捕獲し数を減らす。繁殖を阻止するためには、産卵前の春から初夏にかけて集中して捕獲すると効果がある。



アカミミガメ用の日光浴ワナ



赤色班がある。

甲羅は黒地に黄色い筋模様



成熟したオスには赤色の班がなく、甲羅は黒と黄土色、前脚の爪が長い。

特定外来生物は、販売・頒布を目的とした飼養等、販売・頒布・購入、輸入、野外への放出等が基本的に禁止されている。ただし、アカミミガメは「**条件付特定外来生物**」に指定され、一般家庭等での飼養や少数の相手への無償での譲渡については許可無しで行うことができる。

似た在来のカメとの見分け方



ニホンイシガメ

甲羅の背側は黄土色で、隆起が1本ある。甲羅の後ろがギザギザしていることが特徴。首に目立つ模様はない。

イシガメ科 原産地：朝鮮半島、中国大陸

クサガメ

特定外来 日本100

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

—



甲羅に3本の隆起
首に黄緑色の模様
オスは成熟すると
全身が黒化して首
の模様が消える。

特 徴 基本的に昼行性で日光浴を好む。夏季は早朝や夕方によく活動する。

被 害 ニホンイシガメとの交雑・競合、他の生物を捕食するなど

掲載 URL 東京のアカミミガメを減らそう！スリーアクション＋～実務者向け対策推進のための手引き～（東京都）
<https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kankyo/2025-01-29-165603-572>

防除のポイント ワナを多数設置する

ワナを多数設置することで捕獲が可能

カミツキガメ科 原産地：カナダからエクアドルの米大陸

カミツキガメ

特定外来 日本100 緊急対策

森 里 都 川 湾 伊

本土部

定着初期

防除推進

伊豆諸島

—



特 徴 水生傾向が強く生涯水辺に生息。隠れ場所が多いところを特に好む。

被 害 捕食による淡水生物相への影響。漁具の損壊。ヒトへの咬傷など

掲載 URL カミツキガメ防除の手引き（環境省）
https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/kamituki_tyui.pdf

防除のポイント ワナを多数設置する

ワナに掛かるため、魚のアラなどをエサにした頑丈なワナを多数設置することが現実的

ヒキガエル科 原産地：北海道を除く東日本

アズマヒキガエル

両生類

特定外来

日本100

重点対策

生息・生育環境

森 里 都
川 湾 伊

東京都

本土部

在来種

伊豆諸島

定着初期

防除推進

特 徴

導入経路は不明。伊豆諸島での初記録は伊豆大島で、1980年頃に大発生して問題となった。

生 息 環 境：自然林から埋立地まで幅広く利用

繁 殖 期：早春に繁殖

特 性：天敵の少ない島しょ等に導入されると極めて高い密度に達する。

主な被害

生態系：餌となる地表性の無脊椎動物群集に影響を与える。島固有の生態系に影響がある。



自然分布域外への放逐は、生物多様性の低下をもたらすことを広く普及啓発することが重要

防除のポイント

繁殖期に池を高頻度で見回る

繁殖期に池を高頻度で見回り成体や紐状の卵塊を取り除くことが現実的。このほかに、繁殖期間中に繁殖池をカエルが越えられないフェンスで囲み、侵入を阻む方法が考えられる。

アカガエル科 原産地：アメリカ東部・中部など

生息・生育環境

東京都

ウシガエル

両生類

特定外来

日本100

重点対策

森里都
川湾伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

定着初期

防除検討

特徴

最初の導入はアメリカから。その後も原産地や国内の個体群からの移入が繰り返された。

生息環境：池沼などの止水、穏流の周辺

繁殖期：5～9月

特性：肉食性で口に入る大きさであればほとんどの動物を食べる。

主な被害

生態系：多くの小動物が捕食の影響を受ける。他のカエル類と競合する。



「ウオーウオー」とウシに似た太い鳴き声を出す。

防除のポイント

ワナを多数設置する

成体はかごワナなどでよく捕獲できる。幼生や卵の除去も効果的。成体は警戒心が強く捕獲しにくい。夜間は効率よく捕獲できる。幼生や卵の除去も効果的。

かいぼりも効果がある

冬季に池を干し上げて幼生を駆除することも効果がある。(捕獲に際しては場所や手法により許可申請が必要な場合があるため、事前に関係機関(水産課等)に確認すること。)

アカガエル科 原産地：本州中部以西～九州、中国大陸

アカガエル科 原産地：本州(関東平野から仙台平野を除く)～四国、九州

ヌマガエル

特定外来

日本100

重点対策

本土部

定着初期

防除推進

伊豆諸島

—

森里都川湾伊



特徴 水田付近、河川敷など、高密度で生息。繁殖期には大声で鳴く。

被害 在来カエル類と競合する。

防除のポイント 繁殖期に水辺を見回る

繁殖期を中心に水辺を見回り、成体や卵塊、幼生を駆除する。

トノサマガエル

特定外来

日本100

本土部

定着初期

防除推進

伊豆諸島

—

森里都川湾伊



特徴 水辺で生活し、活動時期には水田や水路、ため池などで見られる。

被害 ほかのカエル類と餌を巡る競合の他、直接的な捕食の影響もある。

防除のポイント 繁殖期に水辺を見回る

繁殖期を中心に水辺を見回り、成体や卵塊、幼生を駆除する。

サンフィッシュ科 原産地：北アメリカ～中央アメリカ

生息・生育環境

東京都

オオクチバス

森里都
川湾伊

本土部

伊豆諸島

まん延期

防除推進

魚類

特定外来

日本100

緊急対策

特徴

釣り対象、食用として導入。2000年代にはバス釣り人口は300万人とも言われていた。バス釣りと結びついた産業が形成され、社会的側面を併せ持つ。

生息環境：山上湖やダム湖、公園池、小規模なため池から河川中～下流域、汽水域に至る多様な水域

繁殖期：水温16～20℃前後の春～初夏
特性：春から秋にかけては障害物のある岸辺近くで活動し、晩秋には深場へ移動。厳冬期は沈木や転石などの障害物の間で群れを作って越冬する。

主な被害

生態系：魚類や甲殻類、両生類、水生昆虫など、多様な水生生物を捕食することによる生態系被害

産業：アユなどの漁業資源の捕食により漁業に影響

手引き各種掲載URL

オオクチバス等防除の手引き（環境省）
https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_bass.pdf
東播磨 かいぼり・外来種防除マニュアル（いなみ野ため池ミュージアム）
<https://www.inamino-tameike-museum.com/pond-museum/manual.html>

防除のポイント

分布を拡げない

捕獲した個体を放流したり、他の水域に移動させない。

繁殖抑制と個体の捕獲

繁殖抑制は、ブロックなどを置いて人工的に産卵床をつくり、卵や仔稚魚を除去する方法もある。個体の捕獲（タモ網やかごワナなど）としては、産卵前のメスや、産卵床にいるオスを捕まえて卵や仔稚魚を守れなくする。

池を干す（かいぼり）のが効果的（捕獲に際しては場所や手法により許可申請が必要な場合があるため、事前に関係機関（水産課等）に確認すること。）



ラージマウスバスともよばれる典型的な肉食魚で、その大きな口で獲物を一気に食べる。



水を抜くかいぼりに合わせて捕獲すると効果がある。

似た魚との見分け方



コクチバス

口が小さく、上あごの後端が眼の中央下までしか達さない。エラの先が白い。

サンフィッシュ科 原産地：北アメリカ

生息・生育環境

東京都

コクチバス

森里都
川湾伊

本土部

伊豆諸島

まん延期

防除推進

魚類

特定外来

日本100

緊急対策

特徴

遊漁のための密放流により導入されたと考えられる。

生息環境：原産地ではオオクチバスよりも寒冷な水域に分布

繁殖期：5～7月

特性：オオクチバスよりも低水温や流水域に侵入できる。



褐色の体に不規則な斑紋がある。目の後方の2本の線が目立つ。

主な被害

生態系：様々な在来生物に直接的または間接的な影響を及ぼす。

産業：漁業資源の捕食

手引き各種 掲載 URL

オオクチバス等防除の手引き（環境省）

https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_bass.pdf

防除のポイント

直接的な防除を行う

タモ網、カゴ罟、延縄、刺し網などで駆除

人工産卵床による防除

人工産卵床を設置して親魚を誘引して駆除を行う方法もある。

（捕獲に際しては場所や手法により許可申請が必要な場合があるため、事前に関係機関（水産課等）に確認すること。）

サンフィッシュ科 原産地：北アメリカ

生息・生育環境

東京都

ブルーギル

森里都
川湾伊

本土部

伊豆諸島

まん延期

防除推進

魚類

特定外来

日本100

緊急対策

特徴

1960年頃に各地で放流された。

生息環境：止水環境や流れの緩やかな河川の下流域に生息

繁殖期：6～7月

特性：雑食性で水生昆虫・植物などを食べる。



小型だが河川や湖沼で様々な水生生物を捕食する。

主な被害

生態系：水生生物を捕食し在来種を駆逐

産業：漁業資源の捕食

手引き各種 掲載 URL

オオクチバス等防除の手引き（環境省）

https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_bass.pdf

防除のポイント

分布を拡げない

捕獲した個体を放流しない、他の水域に移動させない。

繁殖抑制と個体の捕獲

オオクチバスと同様の方法で個体の駆除を実施（捕獲に際しては場所や手法により許可申請が必要な場合があるため、事前に関係機関（水産課等）に確認すること。）

コイ科 原産地：東欧～東アジア

生息・生育環境

東京都

コイ（飼育型）

魚類

特定外来

日本100

森里都
川湾伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

定着初期

防除推進

特徴

古くから国内でのコイの放流が行われ、明治以降には外国産のコイも各地に放流されたため、広い範囲で在来集団との競合、遺伝的かく乱が進んでいると考えられている。

生息環境：大きな川の中・下流域から汽水域、湖、池沼

繁殖期：4～7月

特性：流れのゆるやかな淵や落ち込みの底層部、砂泥底を主な生息場所とする。底生動物を中心とする雑食性で、付着珪藻や水草など、口に入るものは何でも食べる。



水辺のあらゆるいきものを捕食、生態系に大きな影響を及ぼす。

主な被害

生態系：多様な在来種への捕食圧、生態系のかく乱

産業：漁業資源魚類との競合

生活：水質劣化・富栄養化

参考資料 URL

日本の自然水域のコイ：在来コイの現状と導入コイの脅威（馬淵, 2017）
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jji/64/2/64_64-213/_pdf/-char/ja

防除のポイント

かいぼりで直接捕獲

直接的な捕獲や池干し（かいぼり）が効果的（捕獲に際しては場所や手法により許可申請が必要な場合があるため、事前に関係機関（水産課等）に確認すること。）

コイ科 原産地：岩手・山形以南の本州、四国、九州ほか

ドジョウ科 原産地：中国大陸、朝鮮半島、台湾ほか

カマツカ

特定外来 日本100

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

—

森里都川湾伊



特徴 川の中・下流域や湖の沿岸と、これに連絡する灌漑用水路に生息

被害 在来種スナゴカマツカとの競合、交雑

防除のポイント タモ網、投網などで捕獲

タモ網、投網などで捕獲できる。（捕獲に際しては場所や手法により許可申請が必要な場合があるため、事前に関係機関（水産課等）に確認すること。）

ドジョウ（中国大陸系統）

特定外来 日本100

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

—

森里都川湾伊



特徴 水田や湿地や周辺の細流等、平野部を中心に生息するが時に上流部にもすむ。

被害 大陸型のドジョウの導入による在来の同種集団との交雑・競合

掲載 URL ドジョウ・カラドジョウ防除マニュアル（鹿児島県）
https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/gairai/documents/72338_20231017092523-1.pdf

防除のポイント タモ網などで捕獲

タモ網などで捕獲できる。（捕獲に際しては場所や手法により許可申請が必要な場合があるため、事前に関係機関（水産課等）に確認すること。）

カダヤシ科 原産地：ミシシッピ川からメキシコ北部

カダヤシ

特定外来 日本100 重点対策

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

定着初期

防除推進



特 徴 流れの緩い河川下流や灌漑用水。メダカなどに比べて攻撃性が強い。

被 害 メダカとの競合、仔魚・稚魚の捕食

防除のポイント タモ網、かごワナなどで捕獲

タモ網、かごワナなどで捕獲できる。
(捕獲に際しては場所や手法により許可申請が必要な場合があるため、事前に関係機関(水産課等)を確認すること。)

カダヤシ科 原産地：ベネズエラ～ギアナ

グッピー

特定外来 日本100 その他の総合

森 里 都 川 湾 伊

本土部

定着初期

防除推進

伊豆諸島

定着初期

防除推進



特 徴 工業排水の流れ込む河川・水路など水質汚染への耐性が極めて強い。

被 害 不明

防除のポイント タモ網、かごワナなどで捕獲

タモ網、かごワナなどで捕獲できる。
(捕獲に際しては場所や手法により許可申請が必要な場合があるため、事前に関係機関(水産課等)を確認すること。)

メダカ科 原産地：—

ヒメダカ等のメダカ改良品種

魚 類

特定外来 日本100

生息・生育環境

東京都

森 里 都
川 湾 伊

本土部

定着初期

防除推進

伊豆諸島

定着初期

防除推進

特 徴

蚊対策・ボウフラ対策・環境教育を目的とした放流、観賞用ヒメダカの放流・逸出などが考えられる。

生 息 環 境：平地の池や湖、水田や用水、河川下流域の流れの緩やかな場所など

繁 殖 期：4月中旬～8月末

特 性：昼行性で、明るくなると活動を開始して、日中は浅いところで盛んに摂餌。夜間にはそれより少し深いところや水草の中で過ごす。

主な被害

生態系：在来集団に対する遺伝的かく乱



改良品種のほか、地域の在来集団ではない個体の放流が各地で行われている。

防除のポイント

タモ網などで捕獲

タモ網などで捕獲できる。
(捕獲に際しては場所や手法により許可申請が必要な場合があるため、事前に関係機関(水産課等)を確認すること。)

カマキリ科 原産地：中国

生息・生育環境

東京都

ムネアカハラビロカマキリ

森里都
川湾伊

本土部

伊豆諸島

定着初期

防除推進

昆虫類

特定外来

日本100

特徴

中国から輸入した竹箒に卵鞘が付着していたことによって、日本に侵入したと考えられている。東京都では 2000 年に発見された。

生息環境：比較的明るい草原や林縁に生息。自然林、果樹園、住宅地などに幅広く生息

繁殖期：成虫は 9～11 月

特性：在来種のハラビロカマキリより大きく、ムネアカハラビロカマキリが侵入するとハラビロカマキリが減少する。



卵嚢は在来のハラビロカマキリに似るものの、比較的大きく白っぽい。

カマ脚の根本（基節）の突起は細かく 8～9 個。在来種のハラビロカマキリの基節は、黄色くて大きな突起が 3 個で区別できる。

主な被害

生態系：在来種であるハラビロカマキリとの競合

防除のポイント

捕獲、普及啓発活動

捕獲、普及啓発活動による導入・拡散防止が考えられる。

イトトンボ科 原産地：九州南部から南西諸島

タテハチョウ科 原産地：ベトナム北部～中国南部・東部～朝鮮半島

リュウキュウベニイトトンボ

アカボシゴマダラ

特定外来 日本100

本土部

伊豆諸島

未定着

定着防止

森里都川湾伊

特定外来

日本100

重点対策

本土部

伊豆諸島

まん延期

防除検討

森里都川湾伊

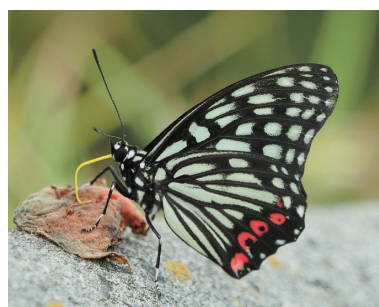


特徴 水生植物の多い池沼など。観賞用の水草に卵やヤゴが付着して侵入し、分布域が拡大している。

被害 在来種のベニイトトンボなどとの競合トンボ類と競合

防除のポイント 捕獲、普及啓発活動

捕獲、普及啓発活動による導入・拡散防止



春型（白化型）は翅全体が白っぽい。

特徴 都市～里山。人為的な放蝶による導入と考えられている。現在までに関東全域に分布を拡大している。

被害 食草が同じで、生活史が類似するゴマダラチョウなどとの競合

防除のポイント 捕獲、普及啓発活動

捕獲、普及啓発活動による導入・拡散防止

カミキリムシ科 原産地：中国、朝鮮半島、台湾、ベトナム

生息・生育環境

東京都

クビアカツヤカミキリ

森里都
川湾伊

本土部

伊豆諸島

定着初期

防除推進

昆虫類

特定外来

日本100

その他の総合

特徴

物流に伴って日本国内に侵入したものと考えられている。バラ科樹木を食害して枯らしてしまう。都内においても、2015年に多摩部で被害が初確認された。

生息環境：公園や市街地の街路樹

繁殖期：幼虫は樹木の辺材や心材の内部で約2年過ごす。成虫は6月ごろに出現して交尾や産卵

特性：羽化した成虫は、直ぐに交尾が可能で、2～9日後から産卵を開始する。産卵は、羽化した樹木や近接する樹木が多いと考えられるが、長距離を飛翔することもあり、広い範囲に被害が拡大する危険がある。



触角はオスが長くメスは短い。

前胸部が赤い。

主な被害

生態系：バラ科樹木を枯死させる原因

産業：サクラ、ウメ、モモなどの果樹への食害

生活：桜並木への被害

手引き各種掲載URL

クビアカツヤカミキリ防除の手引き（東京都）

<https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kankyo/2025-06-12-150956-161>



「フラス」と呼ばれる幼虫が食べた木屑と糞の混合物



被害木の中の幼虫

防除のポイント

「早期着手・早期根絶」が大原則

サクラなどが多く植栽されている施設や並木等を対象に被害発生の有無（主にフラスの有無）を点検することが効率的

詳しくは手引きを参照



クビアカツヤカミキリの生態や被害の見つけ方等について解説

東京都では、被害を食い止めるために「クビアカツヤカミキリ防除の手引」を作成した。都のHPからダウンロードできるので、対策に生かしていただきたい。

問題になっているほかのカミキリムシ



ツバハダゴマダラカミキリ

アキニレ、カツラ、トチノキなどの広葉樹を食害して枯らしてしまう外来種で「特定外来生物」に指定されている。



サビイロクワカミキリ

主にイヌエンジュやエンジュなどの樹木を加害する外来のカミキリムシで「特定外来生物」に指定されている。

アリ科 原産地：南アメリカ

生息・生育環境

東京都

ヒアリ

森里都
川湾伊

本土部

伊豆諸島

未定着

定着防止

昆虫類

特定外来

日本100

侵入予防

特徴

東京都では 2017 年に大井ふ頭で発見。極めて攻撃的で、節足動物のほか爬虫類、小型哺乳類をも集団で攻撃し、捕食する。

生息環境：公園や農耕地等のやや開けた場所

繁殖期：結婚飛行は春から晩秋まで

特性：刺されると、アルカロイド系の毒によって非常に激しく痛む。

主な被害

生態系：生態系に甚大な影響

産業：農業被害

生活：刺傷による人の健康被害

手引き各種 掲載 URL

要緊急対処特定外来生物ヒアリに関する情報（環境省）

https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/02_general/index.html

環境省ヒアリ相談ダイヤル（環境省）

https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/05_contact/index.html



環境省提供

水際対策の徹底で、日本では定着が確認されていないが、定着した場合は甚大な被害をもたらすと考えられる。

防除のポイント

直接的に駆除

殺虫剤（スプレーでも良いが、液剤が望ましい）を散布する。

コラム

国内外来ゲンジボタルの問題

国内の他の地域から持ち込まれたものであっても、「もともとその地域にいなかったもの」という点では海外由来の外来種と変わりません。また、もともとその地域にいた種と同じ種であっても、別の地域から運んできて導入することには問題があります。典型的な例はゲンジボタルです。

その理由は、同じ生物でも、生息している地域によって個体群の遺伝子構成が少しずつ異なるため、地域ごとに異なる遺伝子を持つ集団が存在する場合があるためです。人の手によって別の地域から持ち込むことで、在来個体と持ち込まれた個体が交配し、その地域特有の遺伝子をもつ純粋な系統が失われてしまいます。「遺伝的かく乱」、あるいは「遺伝子かく乱」と呼ばれる現象です。導入個体はその地域に適応した形態生態をもっていない可能性があるため、場合によって

は生存率が低くなってしまいます。同じ国内であっても人の手による生物の移動は行わないようにすべきです。



放虫などの活動が適切なものであるか要検討

ヒメグモ科 原産地：オーストラリア原産と考えられている

生息・生育環境

東京都

セアカゴケグモ

クモ類

特定外来

日本100

緊急対策

森里都
川湾伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

未定着

定着防止

特徴

建築資材などに紛れ込んで侵入した。穴や隙間に強い糸で不規則な網を張る。

生息環境：日当たりが良い場所や暖かい場所にある物陰や隙間に生息

繁殖期：真夏

特性：有害なのは雌のみで、雄は毒が弱い。性質はおとなしく攻撃性はない。

主な被害

生活：神経毒を有するため噛まれると危険

手引き各種 掲載 URL

セアカゴケグモ対策マニュアル（那珂川市）
<https://www.city.nakagawa.lg.jp/uploaded/attachment/13479.pdf>
セアカゴケグモ 早期発見・防除計画（沖縄県）
https://www.pref.okinawa.jp/_res/projects/default_project/_page_001/004/820/04-06seakagokegumo.pdf

防除のポイント

潜んでいそうな場所に注意

ベンチの裏や自動販売機の下、ブロックやフェンスの隙間、外に置いてあるサンダルの中など、物陰や隙間に注意する。

直接的に駆除する

家庭用殺虫剤を散布
皮膚に触れないように靴等で踏み潰す。



東京都保健医療局提供

雌個体。背面に目立った赤色の縦条がある。

都内で見つかった危険な外来種



東京都保健医療局提供

ハイロゴケグモ

注意が必要な類似種としてハイロゴケグモがいる。セアカゴケグモと同じく特定外来生物に指定されている。生態もほぼ同じ。都内では未定着だが、原産地のアメリカでは死亡例もあるほど毒性は強い。

コラム

環境省 日本の外来種対策WEBサイト 防除に関する手引き（防除マニュアル）



URL: <https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/tebiki.html>

環境省の上記WEBサイトには、環境省や他の機関が作成した様々な外来種対策の手引きや防除マニュアルへのリンクが掲載されています。リンク先のマニュアルにはアライグマやオオクチバス、外来植物等それぞれの外来種に特化したものや各自治体が作成した地域特性に配慮したもの等、様々なものが存在します。地域において外来種防除を行う際には、これらの手引き類から対象とする種の具体的な駆除方法や留意点等、外来種に関する理解を高める情報をまとめて得ることができます。

アメリカザリガニ科 原産地：米国南部、ミシシッピ川

生息・生育環境

東京都

アメリカザリガニ

森里都
川湾伊

甲殻類

特定外来

日本100

緊急対策

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

定着初期

防除推進

特徴

食用ウシガエルの餌として導入。劣悪な水環境であっても定着・増殖する。

生息環境：湿地や公園池などの水辺

繁殖期：抱卵メスは一年中見られる

特性：雑食性で落ち葉や藻、水草などの植物、水生昆虫やオタマジャクシ、魚などの動物も食べる。

主な被害

生態系：在来種の捕食。水草も採食して減少させるなど、水生植物にも影響が大きい。それに伴い水生昆虫のすみかが失われることにより、生態系への影響が甚大となる。

産業：田んぼのあぜに巣穴を掘るため農作業を阻害する。また植えた稲にも影響がある。

手引き各種 掲載 URL

アカミミガメ・アメリカザリガニについて（東京都）
https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/animals_plants/400100a20230502113144683

防除のポイント

飼っているアメリカザリガニは逃がさない

野外にアメリカザリガニを逃がすことは法律（外来生物法）で禁止されている。最後まで責任をもって飼育するなど、飼育や被害について周知する。

釣りやたも網による捕獲

釣りやたも網で捕獲し数を減らす。かごワナは、冬季を除き常設して見回る。ワナには様々な工夫したものもあるので、新しい情報の収集に努める。

（捕獲に際しては場所や手法により許可申請が必要な場合があるため、事前に関係機関（水産課等）に確認すること。）



市民ボランティアによる駆除作業



長い触角

赤褐色の体色

赤く大きな鋏脚

特定外来生物は、販売・頒布を目的とした飼養等、販売・頒布・購入、輸入、野外への放出等が基本的に禁止されている。ただし、アメリカザリガニは「**条件付特定外来生物**」に指定され、一般家庭等での飼養や少数の相手への無償での譲渡については許可無しで行うことができる。

水辺で要注意な外来種

釣り餌や観賞用で、中国や韓国から輸入され、放流などによって日本の各地に侵入している。近縁なミナミヌマエビとの交雑も指摘されている。



カワリヌマエビ属

フジツボ科 原産地：汎世界的に移入

フジツボ類

特定外来 日本100 その他の総合

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除検討

伊豆諸島

未定着

侵入予防



※写真はヨーロッパフジツボ

特徴 内湾の岩礁・港湾など。乾燥や幅広い塩分に耐性。満潮時に摂餌

被害 在来の固着生物・水産生物との競合。取水施設に付着することによる汚損被害

防除のポイント はぎとりによる直接防除

直接スコップなどではぎとる。

ワタリガニ科 原産地：地中海、カナリア諸島

チチュウカイミドリガニ

特定外来 日本100 その他の総合

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

未定着

侵入予防



特徴 河口近く～内湾の岩礁、干潟、塩性湿地など。繁殖期には沖合いへ移動

被害 在来貝類への捕食圧、在来カニ類との競合

防除のポイント バラスト水の処理など

バラスト水の対応が進み、生息分布が変化している可能性もあるため、現状把握が必要

ヒバリガイ科 原産地：オーストラリア、ニュージーランド

コウロエンカワヒバリガイ

特定外来 日本100 その他の総合

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

—



特徴 内湾～河口の潮間帯など。寿命は1年程度。水質汚濁・幅広い塩分に適応

被害 水路や給水・排水口などに付着することによる汚損被害

防除のポイント はぎとりによる直接防除

直接スコップなどではぎとる。

リンゴガイ科 原産地：南米

スクミリンゴガイ

特定外来 日本100 重点対策

森 里 都 川 湾 伊

本土部

まん延期

防除推進

伊豆諸島

定着初期

防除推進



環境省提供



環境省提供

特徴 淡水性。水田など。乾燥すると口蓋を閉じて代謝を下げ、長期間生存できる。ピンク色の卵塊がよく目立つ。

被害 稲やレンコンなどの農作物を食害する。

防除のポイント 水田等の取水口に網を設置

網を設置することで分布拡大を防止・低減できる。水深の管理、冬季の耕起で防除する。